

18 高次脳機能障害支援事業関係職員研修会におけるグループワークの導入

－部門間連携－

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター / 研究所 今橋久美子、若林耕司、近藤和弘、澁谷公平、菅野博也、本山真、斉藤孝三、佐藤春巳、許優子、中島八十一

【背景】

当センター学院では、例年6月に高次脳機能障害支援事業関係職員研修会（3日間）を開催しており、終了時に受講者を対象にアンケートを行っている。前年度アンケートの結果のうち今後の要望等については、妥当性および実現性を検討して、次年度以降のプログラムに反映し、改善することが求められる。企画・情報部高次脳機能障害情報・支援センターは、この研修会のプログラム企画調整に参画しており、病院・自立支援局の協力を得て今年度新規プログラムを導入したので報告する。

【方法】

- 1) 平成25年度受講者名簿およびアンケート結果を分析し、受講者の職種、所属機関、今後の要望を明らかにした。
- 2) 1)の結果に基づき、平成26年度プログラムを改定・実施した。
- 3) 2)について平成26年度受講者アンケート結果を基に評価した。

【結果】

- 1) 平成25年度の受講者は191名、職種は作業療法士(16%)、社会/精神保健福祉士(15%)、生活支援員(13%)ほか20種類であった。所属機関は、障害者支援施設(55%)、医療機関(29%)、行政・保健所(16%)であった。今後の要望は、具体的・実践的な就労・相談支援方法の紹介(15%)、講義形式以外(グループワーク・演習・施設見学)(12%)、事例紹介/検討(11%)の順に多かった。
- 2) 1)の結果に基づき、平成26年度研修会では、最終日に事例検討のグループワークを導入した。当センター病院から退院支援、自立支援局から就労支援の架空事例を1題ずつ用意した。受講者は196名、うちグループワーク参加者は、退院支援事例59名、就労支援事例96名であった。1グループ6名で、架空事例提示→グループワーク→発表→解説の順に行った。
- 3) 平成26年度受講者アンケートのうち、グループワークについては「非常に良い」22%、「良い」66%、「普通」9%、「悪い」1%、「非常に悪い」1%、「未記入」1%であった。具体的には「他地域、他職種の視点や情報を得て有意義だった」「他グループの意見も聞くことができ良かった」等の回答が多かった。また今後の要望として「検討時間をもっと長く」「事例検討は続けてほしい」「各グループの発表へのフィードバックがほしい」、テーマについては「在宅支援」「地域連携」「職場定着」「小児支援」等が挙げられた。

【考察・結論】

受講者の要望に沿って研修会にグループワークを導入したところ概ね好評を得た。時間配分やフィードバック、テーマなど次年度に向け再度調整して改善を図りたい。